ASIA FASHION FEDERATION

第6回 アジアファッション連合会 ベトナム・ハノイ大会 **REPORT**

2009 年 12 月

財団法人日本ファッション協会

第6回アジアファッション連合会 ベトナム・ハノイ大会 REPORT

I. 期　　間 ： 2009年11月20日(金)～26日(木)

II. 場　　所 ： ベトナム ハノイ ・ ホーチミン

III. 参加人数 ： 約300名

IV. 概　　要 ：

1. アジアファッション連合会(AFF)参加国

AFF Japan	財団法人日本ファッション協会 (JFA)
AFF China	China Fashion Association (CFA)
AFF Korea	Korea Fashion Association (KFA)
AFF Singapore	Textile Fashion Federation Singapore (TAFF)
AFF Thailand	Thai Garment Manufacturers Association (TGMA)
AFF Vietnam	Vietnam Textile & Apparel Association (VITAS)

2. AFFについて

ファッションを生活文化全般と広く捉え、加盟国の相互理解の下、アジアにおける生活文化の向上を図ると共に、相互ファッションビジネスを活性化させ、アジアのファッションを世界に発信することを目的に2003年12月に発足。日中韓、シンガポール、タイに加えベトナムが加盟し、今年で6年目を迎える。

3. 大会等概要

AFF 大会は、「アジアにおける生活文化向上の波及」および「参加国の相互理解・交流」を目的とし、加盟国が協力し年に一度、加盟国持ち回りで開催している。

第6回大会は、ベトナム・ハノイにて開催される第14回 Vietnam International Fashion Fair (VIFF)、第11回 Vietnam Collection Grand Prix の会期に合わせ開催した。AFF大会のプログラムとしては、ベトナム加盟調印式、デザイナーによるファッションショー、セミナーを実施。更に産業視察としてハノイにて地場産業であるシルク産地ヴァン・フック村を訪ね、ホーチミンではアマタ工業団地を視察、合わせて団地内の日系企業を訪問し、現状や今後の可能性について関係者から話を伺った。また、生活文化視察として、ハノイ・ハロン湾の水上生活者の日常風景を見学、ホーチミンでは農村部を訪れ、特産であるライスペーパー作りの現場を観察した。

4. トップ会談

11月21日(土)　14:00～17:30　Daewoo Hotel Lilac Room

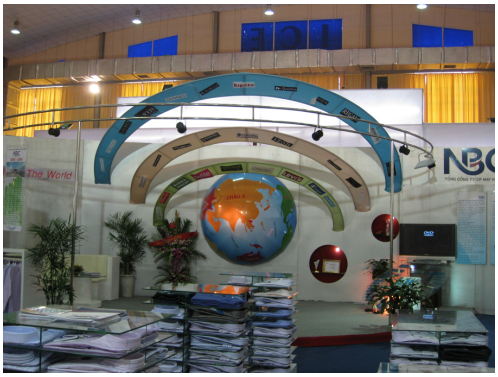
相互交流・理解の段階を経て、ビジネス振興へと活動内容を発展させるべく具体策を検討。第一段階として常設事務局やデザイナークラブの設置、オフィシャルウェブサイト開設などについて話し合われた。常設事務局の設置については、費用負担等の検討事項が多いことから次回の年次大会開催国となった中国に暫定事務局をAFF中国のボランティアで設置することになった。デザイナークラブは、タイが中心となり原案作りを行う。オフィシャルウェブサイトは、ベトナムが中心となってサイト構成案および予算見積りを作成することとなった。

更にファッションショーを大会のつど実施することとなった。

次回の大会については、上海万博会期に合わせ、2010 年 6 月下旬から 7 月上旬の間に中国・上海にて開催することが決定。

5. プログラム

- 関連イベント「Vietnam International Fashion Fair」見学
  11 月 21 日（土）　10：30～11：30　Friendship Cultural Palace
  ベトナム繊維縫製公団（Vietnam National Textile and Garment Group）および Vietnam Textile and Apparel Association、Vietnam Leather Footwear Association が主催するファッション産業を紹介する国際イベント。ベトナム国内外ファッション関連企業 200 社 450 ブースが出店し、約 70,000 人の来場者を誇る。



（出展企業）

（VIFF 会場）

- ハノイシティーツアー
  11 月 21 日（土）　14：00～17：00　ハノイ市内
  ハノイの歴史が感じられる文化施設、景勝地等（ホアンキエム湖、玉山祠、分廟）の見学。

- 関連行事「第 11 回 Vietnam Collection Grand Prix」見学
  11 月 21 日（土）　19：00～21：30　Racing Horse Stadium
  繊維縫製公団が管轄するベトナム・ファッション・デザイン院（Fadin）主催のイベント。ベトナム若手デザイナーの登竜門と位置付けられ、入賞者にはデザイナー育成プログラムが授与される。日本より審査員としてコシノジュンコ氏が参加。

（客席の様子）

（受賞式風景　中央：コシノジュンコ審査委員）

(最終選考作品)

- セミナー

  11 月 22 日 (日)　 08：30～12：00　 Daewoo Hotel Ballroom

  「ワールドクラスのハブ化を目指す“Asian Fashion”」をメインテーマに加盟国および欧米から招いた専門家、総勢 9 名によるセミナーを実施。

  各講師は、次世代教育の必要性や、それぞれのオリジンを再認識する重要性を説いた。また、ファッション産業において生産地としての役割のみならず、ファッションの発信および中心拠点へと転換を試みる取り組みや、産学連携による新しいネットワークを確立しファッション業界の活性化を図った事例などが紹介された。

  日本からは、ブランド“matohu”のデザイナー堀畑裕之氏、関口真希子氏が出席。日本の伝統や文化を学びなおし、日本固有の美意識の中で培われてきた技術や技法を改めて取り入れ現代のファッションで表現することが、西洋の模倣ではない全く新しいクリエイションであると講演。自分たちにしかできない創造を模索する意義を説いた。アジアファッション連合会の趣旨と合致する講演内容に、各国の受講者から大変興味深い講演であったとの声が多く挙がった。

【講演者】

AFF Vietnam	Mr. Truong Anh VU デザイナー、ブランド “The Line By Truong Anh Vu”
AFF China	Ms. Xia HUA President, Eve Enterprise Group 『中国の発信を世界に』
France	Ms. Francine PAIRON Institute Francais De La Mode 『クリエイティブなアイデンティティを確立するために』
England	Ms. Valerie BANNISTER Director of Studies, London Center for Fashion Studies 『アジアにおけるファッション教育』
AFF Japan	堀畑 裕之 氏、 関口 真希子 氏 デザイナー、ブランド “Matohu” 『新しいファッション文化の創造におけるオリジンの再発見について』
America	Ms. Leslie Davis BURNS Professor and Chair Design and Human Environment Oregon

	State University USA 『ファッションデザイン教育における国際的見解』
AFF Korea	Ms. Shelly LEE USA branch director, Monte Milano 『グローバル化　米国マーケットで成功する方法』
AFF Singapore	Mr. David WANG Chairman, Asia Fashion Federation Singapore 『アジアがワールドクラスファッションハブになるために必要な次世代の教育について』
AFF Thailand	Ms. Krittinee NUTTAVUTHISIT Assistant Professor of Marketing, Sasin Chulalongkorn University 『世界レベルのファッションセンターになれる方法ータイブランディングプロジェクトの実態』

（日本代表講演者　堀畑氏、関口氏）

（聴衆者との質疑応答風景）

（講演者集合写真）

（セミナー会場内の様子）

- レセプションディナー
  11 月 22 日 (土)　 17：30～19：00　 Daewoo Hotel Lapaix Room
  来賓として Bui Xuan KHU ベトナム産業貿易副大臣を迎えスピーチを頂いた。参加者は、和やかな雰囲気の中、意見･情報交換等により国際交流を行った。

- セレモニー
  11 月 22 日 (日)　20：00～21：30　Racing Horse Stadium

  ➢ 来賓挨拶　ベトナム副首相　Mr. Hoang Trung HAI

  ➢ 各国代表挨拶

AFF Japan	平井　克彦　氏
AFF China	Mr. Wang QING
AFF Korea	Mr. Jongbok KIM
AFF Singapore	Mr. David WANG
AFF Thailand	Mr. Dej PATHANASETHPONG
AFF Vietnam	Mr. Le Quoc AN

平井委員長より

- ✧ 新たなメンバーとして、高い経済活力と将来性を有するベトナムを迎える事は、限り無い喜びである。
- ✧ 現在、世界経済は、金融危機に端を発する同時不況の中で、依然として深刻な状況にあるが、その中でもアジアは、いち早く回復の動きが見られる。今後、アジアは生産拠点としてのみならず、巨大なマーケットとしてもますます高い注目を浴びる存在になっていく。また、東アジア共同体構想推進への新たな気運が生まれていることも、アジアの潜在力と可能性をさらに高めていくことに繋がる。AFF としては、今こそアジアのファッションや生活文化を世界に向けてさらに強く発信していくチャンスである。
- ✧ 加盟国の増加、そして、このハノイ大会を契機に、アジアファッション連合会の活動について更なる充実が図れるよう、努力していきたい。

（AFF 大会　セレモニー　オープニング風景）
（左：平井委員長）

➢ 各国デザイナーファッションショー

各国で活躍するデザイナー1名を起用し、それぞれ約 15 作品を発表。星形に模られた大型ステージ上に時代を捉えた様々なファッションが披露され、大会を華やかに彩った。日本からは、株式会社 Hidenobu Yasui 代表兼デザイナーの保井秀信氏が登場。落ち着いた趣と斬新な発想とが融合する作品は、各国の参加者を魅了し高い評価を得た。

また、今回は、それぞれ自国のファッションショーの後に各代表者より挨拶があった。

【参加デザイナー】	AFF Japan	保井 秀信 氏 “Hidenobu Yasui” デザイナー
	AFF China	Ms. LI Xiao Yan Fangfang Fashion Design Co., Ltd. “M-Marvel” デザインディレクター
	AFF Korea	Mr. CHOI BO KO C&Boko, Choiboko Fashion, CEO
	AFF Singapore	Mr. Nic Wong
	AFF Thailand	Mr. Ek THONGPRASER
	AFF Vietnam	Mr. Truong Anh VU “The Line” デザイナー

JAPAN

左：平井克彦委員長　右：デザイナー保井氏

（後方の大画面には、ファッションショーの Live 映像と共に、各国のイメージ画像が映し出された）

CHINA

（左：Wang QING 委員長　右：デザイナーLI XiaoYan 氏）

KOREA

（左：Jongbok KIM 委員長　右：デザイナーCHOI BO KO 氏）

SINGAPORE

(左：David WANG 委員長　右：デザイナーNic WONG 氏)

THAILAND

(左：Dej PATHANASETHPONG 委員長)
(中央：デザイナーEk THONGPRASER 氏)

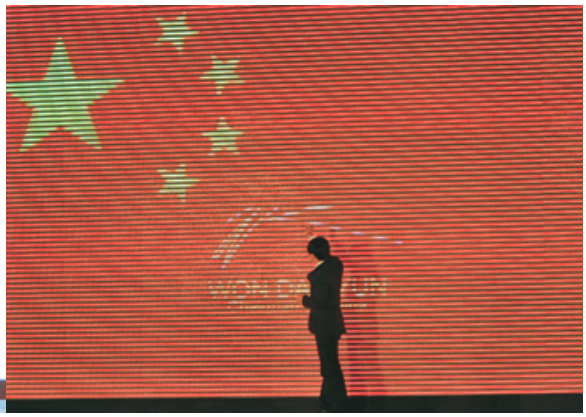
VIETNAM

(左：Le Quoc AN 委員長　右：デザイナーTruong Anh VU 氏)

➢ ベトナム加盟調印式

セレモニーの最後に調印式が行われ、ベトナムが正式に加盟した。今回は、各国委員長が大画面をなぞると自身の署名が映し出されるという凝った演出により大会を大いに盛り上げた。

（日本　　平井克彦 委員長）



（中国　　Wang QING 委員長）

（韓国　　Jongbok KIM 委員長）

（シンガポール　　David WANG 委員長）

（タイ　　Dej PATHANASETHPONG 委員長）

（ベトナム　　Le Quoc AN 委員長）

- 産業視察

11 月 22 日（日）　14：00～17：00　シルク村　（ハノイ郊外、Ha Tay 省 Van Phuc 村）

5 世紀からシルク産業に着手しているベトナム。現在でも質の高い絹織物の産地であり、村人の約 9 割がシルク産業に携わっているハノイ郊外の Van Phuc（ヴァンフック）村を訪問し、伝統を守り続けている現場を見学した。

（伝統的な手動織機）

（作業風景）

- 企業視察

11 月 24 日（火）　14：30～16：30　アマタ工業団地 および YKK VIETNAM CO., LTD.（ホーチミン）

[アマタ工業団地 プロフィール]

事業形態 ： ベトナム（30%）とタイ（70%）の合弁会社。
ベトナムは国営企業であるソナデジビエンホア株式会社、タイは伊藤忠タイランドが筆頭株主であるアマタコーポレーションが運営。

開発面積 ： 700ha （212 万坪）

入居企業 ： 日本、台湾を中心に東南アジアや欧米より、工業用地に約 90 社、レンタル工場に約 25 社が入居。
日系企業では、YKK、花王、ワコールなど約 50 社が入居しており、2010 年には資生堂工場もオープンしアジア向けの製品製造を開始する予定。

ホーチミン市内まで約 30 キロの郊外に位置するアマタ工業団地。敷地内は、道幅の広い舗装道路が長く延び整然としており、現在も更なる拡張工事が進められている。今後は、団地内にショッピングセンターや住宅、教育機関も新設し、工業団地の枠を超え、生活基盤の充実をも図る予定とのこと。好立地に加え好条件を備え発展を続ける様子が伺えた。

[YKK VIETNAM CO., LTD. 概要]

敷地面積 ： 58,216 ㎡

従業員数 ： 約 350 名

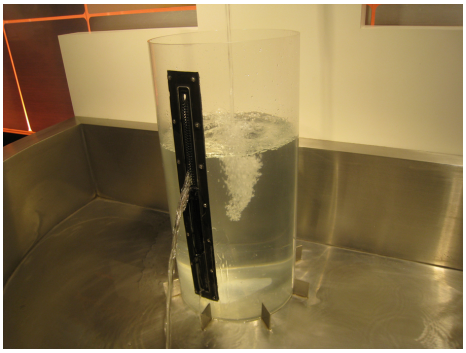
雇用状況 ： 従業員約 350 人、平均年齢 30 才

製品の約 8 割を欧米に輸出、世界シェアー 30%というアマタ工業団地に入居する YKK ベトナム工場を訪問。製品構造やこれまで開発してきた商品の紹介と共に、同社のグローバルな経営体制および世界で展開する地域経営についてレクチャーを受けた。その後、広大なエリアで精密機器や重機がフル稼働する生産現場を見学。更に隣接する資料室を訪れ、様々な分野で実用されている商品を手に取り、機能性やデザイン性の豊かさを実感した。

また、成長を続ける半面、近年 2 桁代の上昇をみせる労働報酬や充実が求められる福利厚生といった労務問題についても話が及び、海外進出の難しさも窺えた。

（アマタ工業団地担当者からのレクチャー）

（YKK 資料室にて製品説明を受ける様子）


（様々な分野で活躍する YKK 製品見本）

- 生活文化視察

11 月 23 日（月） 11：00～13：00 ハロン湾 （ハノイ）

ハロン湾にて水上生活者の住居に立ち寄り、生活様式を見学した。

（水上生活者住居）

（水上マーケット）

11 月 25 日 (水)　10:00～10:30　クチ　(ホーチミン)

　ホーチミン近郊のクチを訪れ、ベトナム特産であるライスペーパー作りの現場を見学。更にライスペーパーを作っている民家を訪問し、農村部の生活スタイルを観察した。

(乾燥中のライスペーパー)

(民家内部)

11 月 25 日 (水)　14:00～14:30　市場　(ホーチミン)

　ホーチミン市内にあるベンタイン市場を訪れ、食料品や生活用品、土産物など様々な商品が所狭しと並び、活気ある場内を見学した。

(市場内)

【ご参加者集合写真】

V. AFF ベトナム・ハノイ大会同行事務局 雑感 ：

世界の成長センターと言われるアジアの一角にあって、ベトナムは、国中が活気に溢れ、今まさに開花期を迎えています。国づくりに向けて、新幹線、高速道路、原子力発電など、ビッグプロジェクトも目白押しです。ベトナムの流行物はと言うと、某紙によれば、①結婚記念の豪華な写真・ビデオ、②OL向け簡易スパ、③高級バッグと靴・サンダル、④バルコニーのミニ菜園などで、そこからは所得水準が上がり、生活を楽しむ様子も窺われ、内需の高まりが見てとれます。

日本との関係は極めて良好です。衣料・繊維の対日輸出は、数量、金額ともに着実に増えており、中国に次ぐ第2位を占めています。去る10月には日越 EPA が、この12月からは日アセアンEPAが発効し、それらの関税削減効果とドン安傾向とが相まって、日本向けの輸出はさらに増えていくことでしょう。しかし、課題も多いようです。ベトナムの繊維産業は、生地等の素材を海外から輸入し、労働集約的な縫製をもっぱら担う委託加工（OEM）生産が主体となっています。今後、メイド・イン・ベトナムの付加価値向上のためには、素材調達問題への対処とともに、デザイン等のソフト面を強化し、オリジナリティーを追求していくことが求められるでしょう。

折しもハノイ大会のセミナーでは、“オリジナリティー”にスポットが当たりました。日本の「まとふ」の夫婦デザイナーのスピーチが、セミナーの流れをリードして、アジアンファッションの創造のために、改めて各々のオリジンを再発見しようとのメッセージが参加者の心に訴えました。伝統・文化に学び直し、それを現代に活かしたアジア的なるものが世界のステージへと大きく羽ばたいてゆけるか、今後ともあくなき挑戦が続けられることでしょう。

AFFは、アジアの生活文化の向上、ファッション産業の活性化とアジアンファッションの世界への発信を目的に発足し、今回のハノイ大会で6回目を数えます。関連イベントのファッションショーでは、日本の保井デザイナーのコレクションも注目を浴びました。また、各国代表者会議では、ビジネスマッチングWEBサイト、AFFデザイナーズクラブなど、いくつかの提案が寄せられ、活発な討議が行われました。AFFは、その活動とネットワークをベースに、情報・意見交換により気づきを与え、ビジネスチャンスの創出、若手デザイナー等の人材育成などにも寄与しています。将来的にアジア共同体構想の機運も生まれつつある中、このAFFというチャネルを通じて、各国の協会活動、ビジネスともに、WIN－WINの関係構築を引き続き模索していきたいと考えます。

来年は、万国博覧会開催に合わせ、7月前後に中国・上海で大会が開催される予定です。AFF日本委員会メンバーの多くの方々のご参加を切に願っております。

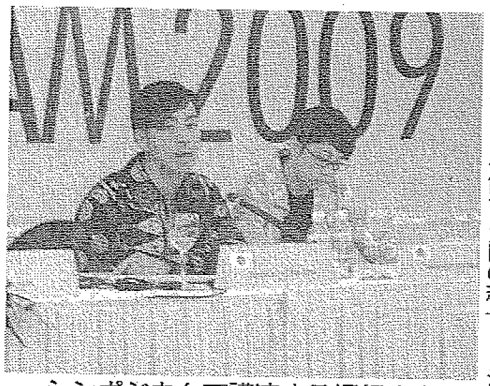
VI. 大会結果掲載紙･サイト

- 繊研新聞 （平成 21 年 11 月 26 日（木）掲載）

AFFハノイ大会

アジアファッションを結束強め世界に発信

参加6カ国で合意



シンポジウムで講演する堀畑さん（左）と関口さん

アジアファッション連合会（AFF）は、加盟6カ国の結束を強め、協力してアジアのファッションを世界に発信することで合意した。21、22日ベトナム・ハノイで開かれた大会では、初参加で主催国のベトナムがAFF全体のアパレルフェアやファッションショーの開催、未加盟国の加入働きかけ、ウエブサイトの開設など積極的な提案を行い、AFFの存在を高めることを確認した。

ハノイ大会には日本、韓国、中国、タイ、シンガポール、ベトナムの6カ国が参加。日本からはAFF日本委員会委員長の平井克彦東レ相談役、同副委員長の三宅正彦サンエー・インターナショナル会長らが出席した。

初日のトップ会談では、各国のファッション業界の現状と今後の戦略を背景に活発な論議が行われた。相互交流による信頼の構築とビジネスの振興、人材育成、世界へのアジアファッションの発信というAFFのコンセプトに基づきながら6カ国の結束を強め、年1度の大会で①トップ会談の開催②シンポジウムの開催③レセプションの開催――の三つを基本に行うことで合意した。次回会議は中国が万博開催中の上海で、6月下旬から7月上旬に開催する。

2日目午前のシンポジウムでは、各国の代表がそれぞれテーマを持ち寄って講演。日本からは「まとふ」のデザイナー堀畑裕之と関口真希子が「新しいファッション文化の創造におけるオリジンの再発見について」をテーマに、伝統的な文化を学びそこから新しいファッションを創造する重要性を訴え、各国から高い関心を集めた。各国代表のデザイナーによるファッションショーでは「ヒデノブ・ヤスイ」の保井秀信がトップで登場し、最新の東京ファッションで会場を沸かせた。（田口佳弘）

- 日本繊維新聞　nissenmedia.com　(平成 21 年 11 月 27 日(水)掲載)

ＡＦＦハノイ大会、起源(オリジン)核に創造　ベトナム加盟で6カ国へ

アジアファッション連合会(ＡＦＦ)の第6回大会がこのほど、新規に加盟したベトナム・ハノイで開かれ、加盟6カ国がアジアファッションの世界への発信で協力することで一致したほか、「まとふ」の堀畑裕之・関口真希子氏が講演で述べた「各国の起源(オリジン)への深い敬意がオリジナルファッションの創造に繋がる」との指摘がアジアファッションの今後の方向性を示すものとして参加者の共感を呼んだ。

ＡＦＦは、04 年 12 月に東京で日本、韓国、中国の東アジア3国が、各国のファッション、生活文化の向上、アジアファッションの世界への発信を目的に結成。以来、年1回、各国の持ち回りで大会を開いている。1昨年にシンガポール、昨年はタイが、今年はベトナムが加盟し、加盟国は6カ国に拡大するとともに、地域もアジア全域に広がった。

ベトナム大会には、加盟各国の代表団と地元から総勢約200人が参加。日本からは平井克彦ＡＦＦ日本委員長以下、15 人が参加した。

各国代表者会議やシンポジウム、夕食会などを通じて明らかになったことは、「ＡＦＦは相互理解・相互交流の第一ステップからビジネスマッチングの第二ステップに入った」(平井委員長)との認識。

ビジネスマッチングの支援では、昨年のタイ大会でウェブを活用することが決まっており、日本はすでに開設しているが、改めてベトナムがビジネスマッチングに有効なウェブサイトのモデルづくりと経費など運用モデルを作成することで合意した。

今大会のセミナーでは、これまで同様加盟6カ国から各国を代表する専門家が講演したが、日本の堀畑・関口氏の「新しいファッション文化の創造におけるオリジンの再発見について」が最大の関心を集めた。

講演のポイントは、グローバル化の結果、文化や情報の均質化・画一化が進んでいる。スーツにドレス、Tシャツにジーンズは、歴史の大きな流れであり、そのオリジナルは西洋にある。しかし、アジアのデザイナーに課せられた課題は西洋の真似ではない、各国が数千年かけて作り上げてきたオリジンに深い関心を抱くことから生まれる創造こそが重要だ」と各国のオリジが創造には不可欠との主張。

これに対して、会場から質問が相次いだ。各国のデザイナーやファッション関係者が「オリジナル」の開発に苦しんでいる現実を反映するものだが、質問には両氏の指摘に共感するニュアンスが強かった。

今大会を開催したベトナムの縫製業は、日本の今年1-8月のアパレル輸入でベトナムが国別で第2位に浮上し、今年 10 月1日には日本ベトナム経済連携協定(ＪＶＥＰＡ)が発効したことで今後とも対日輸出が期待できる一方、欧米向け輸出も健闘していることを受けて、成長途上の勢いを随所で示した。

次回は上海で開催

ＡＦＦは、加盟各国の代表者会議で、ベトナムの加盟を正式承認するとともに、当面はインドやマレーシアなどへの加盟呼びかけは行わず、6カ国が結束して活動することで合意した。

また、次回2010年の大会は、上海万博の会期中の来年6月下旬から7月上旬に中国・上海で開くことを決めた。

● 日本繊維新聞 (平成 21 年 12 月 16 日(水)掲載)

(1枚目/3 枚中)

6カ国でビジネス交流

AFF(アジアファッション連合会)第6回ベトナム大会

AFF(アジアファッション連合会)の第6回ベトナム大会がさる11月21、22日の2日間にわたってハノイで開かれた。ベトナムの加盟で6カ国に拡大したAFFは、各国が生活文化産業としてのファッション産業の振興、相互のビジネス交流に協力して、当初の目的であるアジアファッションの世界への発信を目指す。その流れの中で、今大会で講演した「まとふ」の堀畑裕之・関口真希子氏の「各国のオリジン(起源)を核にした創造」がアジアファッションの方向性として浮上したことは今大会の大きな成果といえる。

加盟6カ国代表、左端が平井委員長

ウェブサイトを有効活用

6カ国のきずな強める

日本、中国、韓国の東アジア3カ国でスタートしたAFFは、一昨年に加盟したシンガポール、昨年に加盟したタイでそれぞれ年次大会を開いており、今回新規加盟のベトナムでの開催は、AFFの領域が北東アジアからアジア全域に広がったことを意味する。

ベトナムは、今大会に対して「AFFは、ベトナムのファッション業界が世界のファッション業界に乗り出していく上で重要なベンチマーク」(アン・ベトナムAFF委員会委員長)と位置づけ、大会運営に熱意をもって臨んだ。結果は、チャイナ・プラス・ワンの有力国として縫製産業が急成長していることをアピールするとともに、ファッション産業へ〝高度化〟する強い意欲を示した。

2010年のAFFの活動については、6カ国の代表者(各国国内委員会委員長)会議で3時間半にわたって討議。ホスト国のベトナムが提起したファッションフェア、ファッションコンテストなどは「既に各国が同種のイベントを開催しており、参加の希望がある場合は既存のイベントに参加することで十分」との意見で一致した。

講演した各国の講師

常設の事務局設置に関しては、来年の第7回大会を開くことが決まった中国が事務局を務めることになり、その上であらためて検討することにした。

AFFが「相互交流・相互理解の第1ステップからビジネス交流の第2ステップに入った」(平井克彦日本委員会委員長)との認識から、昨年のタイ大会で決まっていたウェブサイトを活用することで、ビジネスマッチングを実現するとの試みは、日本だけがサイトを立ち上げているのが実情。このため、ベトナムが相互に市場参入を図るためのビジネスマッチングのモデルサイトを作成し、運用コストなどを確かめることで合意した。

熱心に聴講する参加者

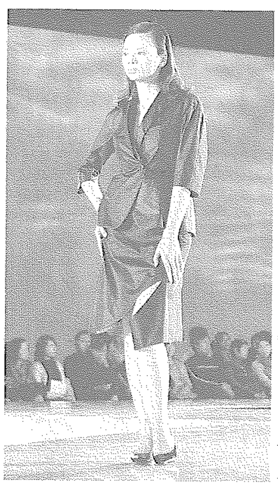
新規加盟問題では、マレーシア、インドに参加を呼びかけるか否かを検討した結果、当面は日本、中国、韓国、シンガポール、タイ、ベトナムの6カ国がきずなを強めることで意見が一致した。

恒例のシンポジウム・セミナーでは、加盟6カ国の代表とフランス、英国、米国のファッション関係者各1人が講演した。自社のアピールに終始する講師がいた中で、日本を代表して講演した「まとふ」の堀畑裕之・関口真希子氏の講演(別項)は、AFFの今後の方向性を明示するものとして今大会の意義を確かなものにした。

AFFの当初の目的である〝アジアファッションの世界への発信〟で、もうひとつ明確ではなかった「アジアファッションとは何か」との問いに、1つの答えを見いだしたからだ。

6カ国・6人のデザイナーが競演

日本から「ヒデノブ・ヤスイ」



日本から参加した「ヒデノブ・ヤスイ」

ベトナム大会でも加盟6カ国の若手デザイナーが最新作をショーで披露した。

日本からは、東京コレクションで頭角を現した「ヒデノブ・ヤスイ」(保井秀信)が参加し、一番バッターで登場した。比翼仕立てのシャツドレスや軽い素材感のブラウス、タイニーカラーのシャツ。ギャザーを寄せながらバッグのように形を構成するスタイル、つまんで立体感を出すドレスや巻きスカート風のボトムなど、ポイントとなるディテールに配慮した作品は、各国からの参加者と成長途上のベトナムの繊維・ファッション関係者から盛大な拍手を浴びた。

平井委員長(左)と保井デザイナー

加盟各国の主として若手デザイナーが競演するショーは、今後の大会でも継続される方向にある。

オリジンから創造を

「まとふ」の堀畑・関口氏

シンポジウム

「新しいファッション文化におけるオリジンの再発見について」

AFFベトナム大会でも恒例のシンポジウムが行われ、各国代表が講演した。日本から参加した「まとふ」デザイナーの堀畑裕之・関口真希子氏の講演はグローバル化した現代における「アジアファッションとは、何か」に1つの回答を与えるもので、参加者の共感を呼んだ。

◇

この10年、わたしたちはかつて想像しなかったようなグローバル化の世界に生きている。世界は狭くなった。いま最もはやっているファッションのスタイルやお店を、世界のどこにいてもコンピューター1つあれば知ることができる。これは、素晴らしいことのように思えるが、同時に「文化や情報の均質化・画一化」という退屈な危機を含んでいる。

講演直後の堀畑(左)・関口氏

ファッションデザインの分野では、もう1つの危機が付加される。長い歴史の中で培われてきた伝統的な織物、染め、装飾、それに伴う美意識の衰退という危機だ。なぜなら、近代化という私たちの目指してきた方向性が、同時に「欧米化」という方向性とほとんど同一だから。

ファッションの中心は、その脈絡からいえば、パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨークにあり、そのコレクションのトレンドがファッションそのものの世界的な流れを決定する。

オリジナルは西洋にある。それを正確に写し、アレンジし、トレンドに合わせるのがアジアのデザイナーに課せられた見えない課題だが、本当にそうか？

オリジナルなファッションの創造に欠かせないもの、それは「オリジン」だ。オリジンとは数千年かけて先祖がつくり続けてきた服飾文化全般のこと。その土地固有の織物、染め、アクセサリーは、オリジナルな「美意識」の上に、長い時間をかけてつくり上げてきた大切な遺産だ。

わたしたちはいまこそ、その国固有の「美意識」を再認識すべきだと考えている。

わたしたちは、伝統的な民族衣装を復活させようという保守的な意見を述べているのではない。逆に、文化的な遺産を学び直しながら、西洋の模倣ではない、自分たちにしかできないファッション創造を模索していきたいと思っている。

今だからこそ、わたしたちは世界市民でありながらも、オリジンに深い敬意と深い関心を払うべきだと思う。

AFFの歩み

03年12月、東京で日本、中国、韓国の3カ国で発足。

第1回大会（韓国・ソウル）
第1回であり、大会自体を成功させるのが目標で、それをクリア。その上で「アジアカラー研究」がテーマに浮上。

第2回大会（日本・名古屋）
名古屋万博に合わせて開催。ストリートファッション、アジアの色彩がテーマのシンポジウムや日中韓の民族衣装のショーで相互理解を深めた。

第3回大会（中国・北京）
テーマの「ファッションシティーの形成」が新たなテーマに浮上。シンガポールが加盟し、AFFが日中韓からアジアへと広がる。

第4回（シンガポール）
ストリートファッションの同時性が一段と高まる一方、消費市場でモバイルを活用した販売が急成長していることが明らかに。

第5回（タイ・バンコク）
タイの主催でAFFの活動舞台が日中韓からアジアへと広がった。相互交流・相互理解からビジネス交流へ脱皮するための新たな課題も浮上。

第6回（ベトナム・ハノイ）
ウェブでビジネスマッチングを進める方向で合意した。シンポジウムでは、「(各国の)オリジンを核に創造する」との「まとふ」の堀畑裕之・関口真希子氏の主張が共感を呼んだ。

今後
ハノイ大会で来年の年次大会は、上海万博に合わせて上海で開催することが決まった。

目指すはファッションシティー

アジア各国・各都市

"3点セット"で競う

東京で発足した後、ソウル、名古屋、北京、シンガポール、バンコク、ハノイで大会を開いてきたAFFを通じて明白になったことは、経済の発展度合いが異なる6カ国だが、ファッション産業の「繊維産業や縫製産業の育成」もしくは既存の高度化のためのファッション化」への強い意欲で一致している事実。

06年の北京大会では「ファッションシティー」がキーワードになったが、この方向性はAFFに一貫して流れている。今回のベトナム大会も、ベトナムファッションフェアの会期に合わせて開かれた。フェアは小規模で、商品レベルも一部の輸出商品を除くと発展途上にあるが、既に年2回のフェアを10年間開き、ベトナム・ファッション・コンテストも11年間開いている。

春と秋、年2回のアパレル・服飾雑貨の展示商談会、デザイナーの最新作を発表するコレクションショー、新人デザイナーコンテストの"3点セット"は、規模や歴史にこそ違いがあるが、各国各都市で実施している。

AFF加盟各国だけでなく、今後の加盟予備国も含めて、ファッションをキーワードにした繊維産業の高度化、付加価値の高いファッション産業の育成の競い合いは、今後激化することが間違いない。そうした"ファッション立国"競争でアジアでは兄貴分の日本が、自らを進化させ、アジアをリードすることができるがどうか。新たな課題がAFFから透けて見える。

対日アパレル輸出が増加

EPAが後押し

ベトナムの縫製業

世界の工場と称される中国。アパレル生産でも世界の工場だが、一方では中国一極集中のリスク(危険)を軽減するため、中国以外に縫製拠点を設ける「チャイナ・プラス・ワン」戦略で筆頭に挙げられているのがベトナム。

人口8600万人、30歳未満70%のベトナムで縫製産業は原油輸出に次ぐ輸出産業で全輸出の14%を占める。08年の輸出額は92億㌦。企業数は約2000社でベトナム製造部門の17%を占めている。

縫製品の輸出先は、2001年までは日本が最大で25―30%だったが、01年の米越通商協定締結後は、米国向けが急増し06年には55%に達し、日本向けは11%に低下した。09年は世界同時不況で米国など先進国向け輸出が減少しているが、現地の日系企業の駐在員によると「世界不況下でもベトナムは健闘している」という。

生産形態は、主に委託加工方式。生地や付属品は海外バイヤーが海外から支給し、ベトナムで裁断・縫製・仕上げを行う。デザイン、販路の決定も海外バイヤーが行っている。

最近のトピックスは、対日輸出の伸び。日本の貿易統計によると、今年1―8月の日本のアパレル輸入で、ベトナムからの輸入は前年同期比9%増の627億円で、長年第2位の座にあったイタリア(31%減で499億円)を抜いて国別第2位(第1位は1兆2300億円でシェア83%の中国)に浮上した。

商社などがチャイナ・プラス・ワンでベトナムに縫製拠点を設けていることが、ベトナムからの輸入が増加している背景にある。

加えて、08年12月1日には日本アセアン包括的経済連携協定(AJCEP)に続いて、今年10月1日には日本ベトナム経済連携協定(JVEPA)が発効しており、関税フリーの状況になっていることから、今後とも増勢を続けそうだ。